

令和4年度 事業報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(はじめに)

大阪対がん協会は、平成25年8月1日付で旧財団法人から公益財団法人に移行した。

今回の事業報告は、公益財団法人に移行して10期目であり、報告期間は令和4年4月1日から令和5年3月31日までである。

《公益目的事業》

(公1) 普及・啓発活動: 啓発イベント開催・情報発信・がん検診の奨励など

【がんに関する啓発イベント】

▽主催行事

① 大阪対がん協会セミナー

単独で運営する啓発イベント「大阪対がん協会セミナー」は、例年2回開催しているが令和4年度は、令和3年度と同じく新型コロナウイルス感染症拡大のため、会場を使用してのセミナーの実施はできなかった。令和5年度は、状況次第ではあるが、年2回の開催を予定している。

② 成人病公開講座

大阪国際がんセンター、大阪成人病予防協会とともに4回開催した。いずれも講演を録画し、後日映像を公開した。各回とも大阪国際がんセンターの医師を中心とした講師が、図や表などをまじえて、分かりやすく説明している。各回のテーマと講師は次のとおり。

回数	公開期間	テーマ	講師(敬称略)
95回	6月8日～ 10月6日	最新の大腸がんの診断と治療	竹内洋司、原口直紹、西田尚弘
96回	10月5日～ 11月30日	知ってますか? 泌尿器がん ～基礎知識と最新治療～	西村和郎、中山雅志、中井康友
97回	12月7日～ 3月2日	皮膚がんと皮膚病変	小澤健太郎、大江秀一、爲政大幾
98回	3月1日～ 6月20日	がんの経験者に対する人間ドック	伊藤壽記、中田佳世、向井幹夫

③ がん予防キャンペーン大阪

「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会が主催するシンポジウムは、大阪府のがん死亡率とがん検診率を改善することを目的として実施されている。令和4年度も令和2年度からと同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演を録画し、後日映像が公開された。

毎年、当協会は実行委員会を構成する主催11団体の一つとして参加しており、構成団体は、ほかに大阪府、大阪市、大阪府医師会などで、実行委員会事務局は大阪府保健医療財団が担当している。今年度(2022年度)のテーマは「今こそ受けよう！肺がん検診 ～大切な検診と適切な治療～」で、「肺がんの内科治療はびっくりの進歩！ でも一丁目一番地は予防と検診です」「肺がん検診 早く小さいうちに見つかった肺がんの治療について」を演題として、講演が行われた。

④ オンコロモーション認定指導員の認定事業

がん患者さんへの術前・術後の運動指導を当協会のがんサバイバー向けの運動プログラムとし、運動指導者養成の試験合格者に「オンコロモーション認定指導員」の認定証を発行する事業である。がん治療に関する高度な専門知識と職業倫理を有し、がん患者とその家族に寄り添うことができ、がんサバイバーシップの強化に繋げ、「がん」と診断されてからの生き抜くプロセスを手助けする人材の育成を目的として、オンコロモーション認定指導員の資格認定を行うものである。

本認定事業については、令和4年6月13日付けで大阪府に認定申請を行い、令和4年9月9日付けで認定され、令和5年度からオンコロモーション認定指導員の認定事業を実施することとなった。

▽【共催】【後援】行事

特定非営利活動法人、学会、医療機関などが主催するイベントに対して、「共催」や「後援」による支援をしており、今年度は以下のイベントに対して実施した。

【共催】

- ① AYA 世代がん患者がキラキラできるプロジェクト
開 催 日:令和4年6月18日(土)
主 催 者:特定非営利活動法人 つながりひろば
- ② AYA 世代がん患者がキラキラできるプロジェクト
開 催 日:令和5年3月18日(土)
主 催 者:特定非営利活動法人 つながりひろば

【後援】

- ① 2022年度頭頸部外科月間キャンペーン ―市民公開講座・口腔がん無料検診―
開 催 日:市民公開講座は、令和4年7月3日(日)
口腔がん無料検診:令和4年7月4日～31日
主 催 者:日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪府地方部会、大阪府耳鼻咽喉科医会
- ② 第26回大阪がん検診治療研究会 主題『食道がんの検診は可能か?』
開 催 日:令和4年10月1日(土)
主 催 者:大阪がん検診治療研究会

- ③ 第15回『ピンクリボン大阪 2022 女性がんの検診啓発～ピンクリボンまつり in 大阪～』
開 催 日:令和4年10月16日(日)
主 催 者:特定非営利活動法人 ピンクリボン大阪
- ④ 第16回日本禁煙学会学術総会 一命を守るための禁煙へー
開 催 日:令和4年10月29日(土)ー30日(日)オンライン開催
主 催 者:(一社)日本禁煙学会
- ⑤ がん教育の普及・促進プロジェクト「がんサバイバーメッセージ動画」「がん出張授業」
新聞掲載日:全国版朝刊 令和5年1月及び3月(2回掲載)
デジタル 令和5年1月～4月末まで掲出
出張授業:高等学校2校 令和4年12月及び令和5年1月
主 催 者:朝日新聞社メディアビジネス局・小野薬品工業株式会社

【がんに関する情報発信】

- ① オリジナル小冊子などの配布
協会発行のがん啓発小冊子「進め！がん防衛隊第2版」を、多くの方にご覧いただき、多くの方にがんを知るきっかけとしてもらうために、主催行事などでの配布や希望者への送付を続けている。なお、医療機関などから、大部数を希望された場合は1部100円で販売をしている。また、別にご覧いただき、がん検診を勧める啓発チラシを2種類作成し配布している。
- ② 協会ホームページ
インターネットによる情報収集の広がりに対応するため、平成22年5月に協会ホームページを開設し12年目を迎えた。内容の充実を図るとともに、更新して最新の情報提供に努めた。協会が主催・共催・後援するイベントの告知、がん研究助成奨励金事業の詳細を掲載するほか、決算書などの情報公開資料も開示している。
- ③ 事業概要・協会報
8月に「令和3年度事業概要」を発行した。令和3年度の事業内容や寄付者名簿のほか、がん研究助成奨励金受賞者も併せて掲載した。協会報は6月、12月に発行した。

【日本対がん協会関連事業】

「日本対がん協会大阪府支部」としてがん征圧事業で連携、協力を進めた。

- ① がん征圧月間
9月を「がん征圧月間」として日本対がん協会が展開する各種事業に参加・協力した。メイン行事として9月2日(金)にオンラインで開催された「がん征圧全国大会」に参加した。また、共通デザインの「がん検診の推進」と「禁煙」の2種類のポスターを各100枚作成し、大阪府医師会、大阪府看護協会など関係各団体へ送るなど、征圧月間の目的であるがんの予防知識や早期発見・早期治療の重要性を広く伝えるための啓発活動を行った。
- ② 近畿ブロック会議
日本対がん協会と近畿2府4県の支部が、がん征圧事業の報告や意見交換をする近畿ブロック会議は10月25日(火)にオンラインで開催された。事前に各支部から出された質問に日本対がん協会と他の支部が答える形式で、検診に関する動向や各支部運営の管理面について有益な情報を交換する話し合いが持たれた。

③ 子宮頸がん・乳がん検診無料クーポン券の活用

日本対がん協会が発行している子宮頸がん・乳がん検診無料クーポン券(各 50 枚)を活用し、がん検診の受診率向上に取り組んでいる。今年度は、URL 又は QR コードで予約申込をするように変更されている。

【患者支援活動】

患者会等からの依頼に基づき、イベントの PR など告知面で協力した。

(公2) がん研究助成:がんの研究、治療に当たる医師、看護師らへの助成

【がん研究助成奨励金】

新進の研究者・医療従事者(基礎・臨床・疫学は40歳未満、看護等は45歳未満)を支援する「がん研究助成奨励金」事業は協会の目玉事業である。同事業は協会設立翌年の昭和35年度から始め、今回で63回目を数えた。2022年度は「基礎」「臨床」「疫学」「看護等」の4部門で計15人の贈呈者を選び、各30万円を贈呈した。今年度は計39人から研究計画の応募があり、外部の専門家など13人の選考委員が採点した結果をもとに令和5年2月20日に開かれた選考委員会(委員長＝松浦成昭・協会長)で贈呈者を選んだ。

受賞者は今回で延べ1775人、奨励金の総額は4億2460万円となった。なお、今年度についても、昨年度同様に新型コロナウイルス感染症等の影響で贈呈式は実施していない。

《会員向け事業》

主に賛助会員向けの特典として協会が進めてきた事業について、公益財団法人に移行後は「その他の事業」として、令和4年度も以下のような会員向け事業を継続実施した。

(他1) 賛助会員サービス:定期的な情報の提供、がん検診の奨励

【情報の提供】

① 協会報

協会報は6月、12月の2回発行した。各1000部印刷し、内容は以下のとおり。

発行月	主 な 内 容
6月号	2021年度がん研究助成奨励金・受賞者紹介、がん医療 展望 vol.15 「大阪のがん状況のさらなる改善をめざして」、会員のみなさまへのお願い、令和4年度がん検診無料クーポン券のプレゼントキャンペーン
12月号	2022年度がん研究助成奨励金の募集内容、秋の啓発イベント報告(成人病公開講座、がん予防キャンペーン大阪)、がん医療 展望 vol.16 「がんサバイバー」、来春のがん検診案内

② 事業概要

「令和3年度版事業概要」を8月に発行した。1000部印刷し、会員のほか、関係機関、希望者に郵送した。A4判で本文40ページ。従来どおり事業報告、決算報告、寄付者名簿などを掲載、がん研究助成奨励金の2021年度受賞者13人の研究内容を7ページにわたって紹介している。普及啓発活動の紹介の項目では、協会の主催・共催・後援イベントを掲載した。

【がん検診の奨励】

① がん検診【春・秋】の奨励

会員向けがん検診は、春と秋に行っており、春は大阪がん循環器病予防センター、秋は大阪府医師会保健医療センターで、胃、大腸、肺、乳腺、子宮の5部位について実施された。春の検診は協会報12月号、秋の検診は8月発行の事業概要に同封して案内し、受診を奨励した。

《協会の運営》

【運営面の状況】

① 遺贈について

令和3年度の約3333万円の遺贈の受入れに続き、令和4年度は、約2億1000万円の遺贈を受け入れることが決定し、令和5年6月に受入予定である。

更に現在、遺贈の手続きをしているものが2件あり、ともに公正証書が作成されている。

【決算および寄付の状況】

① 令和4年度末の正味財産について

令和4年度末の正味財産額は5341万円で、前年と比較して344万円減少した。経常増減額は収益が1666万円、費用が1817万円で△151万円となり、支出面では通常の寄付額の増加を上回るものとなっているが、新たな事業「オンコロモーション認定指導員」資格認定事業計画の策定の委託費等の支出等130万円の支出があったため、上記の結果となった。過去3年間の正味財産の増減は、令和2年度(80万円増加)、令和3年度(3029万円増加)、令和4年度(344万円減少)という結果となっている。

② 受取寄付金とその内訳について

令和4年度の受取寄付金(会費及び使途特定寄付金を含む)は1463万円であるが、指定正味財産より193万円を取り崩したため、合計1656万円となった。その結果、前年度に比べて260万円増加した。過去3年間の受取寄付金は、令和2年度1351万円、令和3年度4729万円、令和4年度1656万円である。

受取寄付金の内訳は、正会員からの会費収入は400万円、会員は4法人であるが、会員数は、令和2年度から増えていない状況である。賛助会員からの会費収入は218万円、会員数は306件。正会員と賛助会員からの会費収入の合計は618万円、会員数の合計は310件。前年度に比べそれぞれ金額で19万円の減少、件数では41件の減少となった。高齢などの理由で賛助会員の退会が多くなり、減少が続いている。会費以外の寄付金は698万円、42件で、前

年度に比べ金額で3270万円減少、件数では2件減少した。

会費以外の寄付金の増減は、やむを得ないかもしれないが、賛助会員の会費収入は、年々減少傾向にあり、今後の事業の継続のためには、賛助会員の増員等、受取寄付金の収入増の対策が求められる。

③ 募金型自動販売機

飲料メーカーと連携し、「がん征圧支援」を掲げる自動販売機の設置に取り組み、協会の収入増と知名度アップをめざしている。募金型自販機は9ヶ所で、今年度はコロナウイルス感染症の影響を受けたものの、令和4年度の年間収入額は146万円（前年度は123万円）で安定した財源になっている。

以上